

豊通ソーテック、本稼働へ

開所式開催 アルミ再生原料供給

豊田通商グループの豊通ソーテック（本社＝兵庫県赤穂市、田形拓郎社長）は24日、兵庫県赤穂市でアルミサッシなどリサイクルアルミ原料の水平リサイクルを行う本社工場の開所式を開催した。豊田通商サイキョーエ

コノミィ本家の佐合昭弘CEOや川島グループの川嶋一義代表、赤穂市の牟礼正穂市長など約100人が参加した。試験稼働を経て、8月から本格稼働を開始する。

同社は2023年10月に設立し、豊田通商グループの豊通マテリアル（浅井繁社長）が80%、川島グループの三光埼玉（黒川幹仁社長）が20%出資する。西日本を中心にアルミスクラップを集荷し、高品質なリサイクルアルミ原料として建材メーカーなどに供給する。

式典では田形拓郎社長があいさつに立ち「4年前に事業化の検討を始め、着工からセロ災害で期日通りに建設に至った。建設に携わった関係者に御礼を申し上げたい。当社の親会社の豊通マテリアルは自動車産業で培っ

式典でのテープカットの様子



た循環型静脈事業の知見や国内資源を体系的に集荷するサブライチエーションを持ち、同じく

親会社の三光埼玉はアルミサッシのリサイクルで培った高い技術力とノウハウで、より安全で合理的なプロセスや最新鋭の高度破砕選

別設備を選定した。今後、両社の強みを掛け合わせて、サイキョーエコノミーやカーボンニュートラルの実現と加速化に貢献を果たしていきたい。リサイクルアルミ原料の水平リサイクル需要の増加に 대응するとともに、自動車向けなどでの活用も視野に入れ、事業を推進していきたい」と力を込めた。

引き続き、来賓を代表して牟礼・赤穂市長があいさつに立ち、今後への期待を語った。